

専門基礎教育科目・専門教育科目の授業概要

【専門基礎教育科目】

科目区分		授業科目名	授業の内容
専門基礎教育科目	人間の理解	解剖生理学	健康な人体の構造、人体を構成する臓器の位置・形態を一連の機能系統別に学習し、看護の対象の健康状態を系統的に把握するために必要な解剖学的知識を習得する。
		病態生理学 (含：病理学)	人体の正常な構造と機能がどのような要因によって異常をきたし、調整機能の破綻が生じるかを理解し、病態の成り立ちを学ぶ。生体を構成する様々な器官・組織・細胞・分子レベルから見た病態の発生機序を学修する。
		生化学	生命活動における生化学的機能と仕組みを学び、それらの異常がどのように疾病発生と関連しているのかを学修する。特に、病態の理解に必要な生化学的知識、生体を構成する物質とその代謝、遺伝情報の発現などについて学ぶ。
		人間関係論	個人間、集団間及び個人と集団の相互作用の過程について扱う。特にグループ・ダイナミクス(集団力学)の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や法則性について検討する。また、グループ・ワークを通して対人関係の諸課題を体験的に学習する。
		生涯発達論	人間の一生涯という全行程を発達のプロセスととらえ、生を受けてから生涯を終えるまでの間の身体・心理・社会的発達について、特に発達心理学の視点から理解する。発達段階の特徴、現代人の発達課題と危機などについて学習する。
		家族社会学 (含：ジェンダー論)	この授業は、「晩(非)婚化」「少子化」「高齢化」「格差化」という言葉で表される今日の「家族」の姿を、社会科学(社会学、人類学)の視点を通して理解していくための入門コースとして位置づけられています。現代社会における「家族」を、日本の現代史の背景の中で出現してきた社会のひとつの「形」と捉え、それを踏まえて、今日のジェンダー、育児、介護・社会福祉、貧困等に関わる諸問題に対して、家族や社会がどのように向き合い、対応しているのか、そしてどのようなオルタナティブな対応方法があるのかを、テキストの熟読、身近な具体例、海外の事例を通して考察していきます。
		精神保健	精神保健学は精神的な健康の保持・増進を取り扱う学問として発展してきている。心の健康を考える上で、現代社会における様々なメンタルヘルス上の問題について理解を深め、私たちの周囲にあるストレスとのかかわり方について学び、メンタルヘルス上に課題をもつ人々がその課題を抱えながらも well being に生きてゆくと言うことはどういうことなのかを考える。
	健康の理解	健康相談活動の理論と方法	健康相談活動の基礎理論として、発達と健康、児童から青年期にかけて特徴的な新心疾患、身体症状と心の関係、心身の悩みや問題のケア、相談活動の記録法について講義する。
		病態治療学Ⅰ (内科系疾患)	臨床において比較的遭遇しやすい内科系疾患について、病態機序、臨床症状、予後・合併症、治療・検査等について系統的に学習し、看護実践に必要なキュアー(cure)とケア(care)を統合できる基礎的能力を習得する。
		病態治療学Ⅱ (外科系疾患)	外科系疾患に対する看護を展開するために必要な、疫学、病態生理、臨床症状、検査法、診断、外科的治療の方法、適応、合併症、予後について学習する。近年の診断や治療法は進歩をつづけ、新しい機器や手術術式が開発されており、これらの最新の知識も修得する。
		病態治療学Ⅲ (小児疾患)	小児の病態、診断、治療について学ぶ。看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略を理解する。
		病態治療学Ⅳ (母性疾患)	母性の病態、診断、治療について学ぶ。看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略を理解する。女性生殖器疾患や母性疾患において診療で用いる検査法の種類と原理、疾患の病態等を理解し、看護に必要な医学の基礎知識を学習する。
		病態治療学Ⅴ (精神疾患)	精神疾患および精神健康問題を抱えた対象者の看護を展開するために必要な疾患、病態、診断、治療の概略について学ぶ。内容としては、統合失調症、感情障害、パーソナリティ障害、物質依存症、思春期精神疾患、器質性精神疾患などの治療と精神などの治療と精神医療の現状について学習する。

科目区分		授業科目名	授業の内容
専門「基礎教育科目」	健康の理解	老年学	急速に進む高齢化社会において、高齢者のおかれている現状、問題点を理解すること。 さらに、老化のメカニズムを理解し、高齢者の疾病の特徴を学び、どのように対応していくかを修得する。
		薬理学	この授業科目は、薬物治療における医師・薬剤師などとのチームワークのなかで看護職としての役割を果たすために習得すべき薬物療法の知識と日進月歩である薬物の生理学的効果ならびに作用機序について学習する。
		免疫学	この授業科目は、免疫学についての系統的な学習を指導する。①「免疫の基本的な仕組み」、②「免疫学的寛容と自己免疫疾患」、③「自然免疫と獲得免疫」、④「感染症と免疫」、⑤「移植と免疫」、⑥「ステロイドと免疫」、⑦「エイズや癌と免疫」、⑧「アレルギー疾患」などを解説し、学校現場に必要な⑨「個人的、集団的な感染防御における免疫学」、⑩「ストレスと免疫」、⑪「児童から青年期にかけて多い免疫系疾患（喘息、アトピーなど）」についても学習する。
	健康の理解	微生物学	人体と関係の深い微生物（細菌・ウィルス・真菌・寄生虫など）の種類、形態、構造などの基本事項に触れ、微生物と宿主との相互作用について概説し、感染予防や治療の知識・技能を修得できるよう教授する。また、感染防止の手段として、滅菌、消毒等の概念を理解すると共に、日常生活における微生物の利害両面にわたる係わり合いを認識し、感染管理の意識を育成する。
		栄養学Ⅰ	この授業は、健康と栄養、日常生活と栄養、食物と栄養、疾病と栄養について学習し、ライフステージと栄養の関係を理解する。さらに、食事摂取基準、栄養状態の判定を学び、栄養的要因が関与する疾病とその食事療法について理解する。 また最新情報なども取り入れ講義する。内容の詳細は、食と健康、食事と栄養、食生活と栄養管理、食事摂取基準、食品の種類と栄養素、栄養素とその働き、食物の摂取と消化吸収、ライフステージと健康（妊娠・授乳期、乳幼児期、学童・思春期、成人・老年期）を学習する。その上で、栄養学と看護が深く関連している事を認識し実践して貰う。
		栄養学Ⅱ	この授業は、前期栄養学で学んだ基礎知識の上に、栄養的要因が関与する疾病とその食事療法の基本的な内容を理解する。高齢化に伴う社会の変化と同様、入院中の食事療養にも高齢化が反映している。増え続ける経腸栄養（経鼻経管食・濃厚流動食）の詳細についても学ぶ。特定健診では、保健師の役割とその制度の概要等について学ぶ。また、2006年の診療報酬改定により病院において栄養サポートチーム（NST）による栄養管理が多くの病院で行われるようになった。チーム医療の一つであるNSTの手法について学び、臨床栄養学における看護者の基本的な知識の大切さと役割について理解する。8回の講義を通じて、医療・介護制度の中で看護師・保健師の果たす役割も学ぶ
	環境の理解	公衆衛生学	社会の組織的および個人的な努力を通じて疾病を予防し、健康を維持しつつ、寿命を全うするための具体的な健康増進を図るための学問を学ぶ。保健統計、人口動態・動態統計、生活習慣病・感染症の予防、保健行政、社会保障、保健・医療・福祉制度、公衆衛生関係法規などについて学習する。
		保健統計学	本科目において、社会現象、自然現象、健康現象に対する統計学的な捉え方及び考え方を学び、保健分野における統計学の正しい利用及び解釈を学習する。また、卒業研究及び看護実践への活用を目指し、調査データや実験データの統計処理を学び、データの要約及び分析の仕方を習得する。本科目は、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。
		疫学	疫学とは「人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分野を明らかにする学問」であり、公衆衛生学の一分野として発展してきた学問である。今回は、保健看護職に必要な疫学の基礎を学ぶ。本科目は、講義形式で行う。また、産業保健師及び行政保健師として実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。
		保健福祉行政論	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、社会保障制度、地域保健の体系、保健医療福祉の計画と評価について概説する。
		看護と福祉	生活者である患者の心理的社会的理解を通して、医療（看護）と福祉の連携の必然性、患者に対する支援態度及び支援方法、医療職と福祉職の協働等を概説する。

科目区分		授業科目名	授業の内容
専門基礎教育科目	環境の理解	学校保健	学校保健とは、学校における保健管理や保健教育を通し、児童生徒等の健康の保持増進を図るとともに、集団教育としての学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行い、児童生徒が自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することを目指している。 この科目では、学校における児童生徒等の健康課題や保健管理、保健教育、安全管理と指導法、保健組織活動等について学び、学校保健活動において必要となる基礎的知識・技能・態度を習得する。
		産業看護学	産業保健の目的は、あらゆる職業に従事する人々が身体的、精神的および社会的にも満たされた状態を維持または増進することであり、さらに作業および作業環境等に起因する疾病を予防し、作業者の特性に合わせて仕事を適合させ労働能力の維持と増進を図ることである。産業看護学では、これらの目的を達成するために必要な知識を学習する。本科目は、講義形式で行う。また、産業保健師の実務経験のある教員及び学外講師による講義により、理論と実践の部分から理解を深める。
		保健医療と法	この授業科目は、健康生活を支えるための保健医療制度に関する法規を理解し、対象への援助や問題解決ができるよう、保健医療の概念、法規の概念、看護職者と法、保健師助産師看護師法、看護師等人材確保に関する法律、医療法など関連法規について学ぶ。あわせて医療・行政機構にも言及し、医療過誤の現状と防止策について沖縄の保健看護行政をふまえて教授する。本科目は、看護師免許を持ち、臨床経験の豊かな教員が担当し、理論と実践の部分から講義を行い、学生の理解を深めるように努めている。
		医療英語	この授業科目は、将来の多様な国際看護の場で必要とされる英語力の育成を主眼とする。会話力、読解力、表現力、判断力を育み、国内外の様々な看護・医療分野で英語を使って仕事を遂行できるようにする。
		養護概説	養護の概念について歴史的・社会的な観点からとらえ直しながら、養護教諭の歴史的な変遷、現代に求められる役割、活動過程の在り方、養護の原理や機能に関する理解を深める。さらに、現代の学校教育に求められている養護教諭の多様な役割について学習する。
		保健行動論	個人の健康課題に関連した行動や心理的側面について行動科学を基盤として理解を深め、保健行動、病気適応過程などの一般的行動パターンおよび行動変容に関する理論を学習する。 あわせて健康の捉え方と健康観、保健行動の多様性および行動変容に向けた援助基盤について理解する。

【専門教育科目】

科目区分			科目名	授業の内容
専門教育科目	専門分野Ⅰ	基礎看護	看護学概論	看護とは何か、看護の専門性および自立性とは何か、看護学の概要について学ぶ。また看護職への期待と課題について考察し、自身の看護観やキャリアデザインを描くことを試みる。内容は、看護の本質と機能、看護の歴史的変遷、看護の科学性・芸術性、看護の対象と方法論、看護活動の場と看護提供システム、看護の質の向上と看護専門制度、看護における倫理、これからの看護（看護職）について学ぶ。
			看護援助論	看護実践の基盤となる援助的人間関係形成の理論と技術について学ぶ。
			基礎看護技術Ⅰ	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた生活援助技術を、講義・演習を通して修得する。具体的には、生活環境を整える技術、活動と休息への援助、バイタルサインの測定技術、清潔の援助、排泄の援助、食生活の援助技術など、対象の安全、安楽、自立を考慮した日常生活援助技術を修得する。
			基礎看護技術Ⅱ	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、何らかの健康問題をもつ人の診療過程を支える看護師の役割を理解する。そして、ケアの安全性・安楽性・倫理性について学び、科学的根拠に基づいた基本的援助技術を、講義・演習を通して修得する。
			看護実践方法論	意図的な看護実践とは何かを問い、科学的、個別的な看護を提供するために必要な情報をアセスメントし、対象者に必要な看護を提供するための思考過程について、講義・演習を通して学修する。また、対象者の意志を尊重し、共に看護計画を立案する患者参画型の看護計画を立案する意義について学ぶ。
			フィジカルアセスメント	看護実践の基礎である観察技術や測定技術、コミュニケーション技術を用いて、対象の健康状態を把握し、アセスメント結果から正常及び正常からの逸脱を判断できる知識、技術を習得する。また、看護におけるアセスメントと観察技術の意味、対象の全人的理解と倫理的配慮、アセスメント結果を看護過程に関連付けるための学修をする。
			基礎看護実習Ⅰ	看護の実践現場において、看護を必要としている人々の様子や、医療従事者の働きを観察し、どのような支援が行なわれているのか具体的な事実を通して理解する。
			基礎看護実習Ⅱ	健康障害のある人と援助的関係を築き、日常生活援助技術を用いて健康状態に応じた看護を実践する方法を学ぶ。対象の療養生活における援助の必要性をアセスメントし、看護援助に必要な知識・技術・態度を習得する。
	専門分野Ⅱ	成人看護	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解するとともに、成人期の対象を取り巻く社会環境、文化的背景、家族形態や機能、保健医療システムなどから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を包括的に理解できる。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という視点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する看護とその方法について学ぶ。
			成人看護学方法論Ⅰ	急激に健康状態が変化する状況（急性期）にある成人期の対象の特徴、疾病や治療、クリティカルケア、周手術期看護について学習し、急性期にある人とその家族に対する看護の展開と看護実践に必要な専門的知識と技術を習得する。また、病院前（プレホスピタル）、救急室、手術室、ICU/CCU など様々な場における急性期看護の特徴を理解する。
			成人看護学方法論Ⅱ	慢性的な経過をたどり、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする対象とその家族への看護を学習する。慢性疾患の特徴や、病気の認知と受容、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポートについて理解し、様々な機能障害の特徴を踏まえ、対象と家族にとって最適な健康状態になるような看護実践に必要な理論、方法を習得する。実務経験のある教員が担当し、理論と実践を関連付けて理解を深める。

科目区分		科目名	授業の内容
専門 教育科目	成人 看護	リハビリテーション 看護論	リハビリテーションの理念や主要概念の理解をもとに、リハビリテーションを必要とする患者・家族の生活再建に向けた看護の役割・機能について学習し、合わせて他職種との連携・協働の在り方について理解を深める。さらに、運動・認知機能障害の回復に向けたリハビリテーション看護実践方法について学ぶ。
		成人看護実習Ⅰ	健康障害により、手術やクリティカルケアを必要とする成人期の患者・家族を対象に、身体的・心理的・社会的状況をアセスメントし、生命の危機的状況下（急性期）に最適な看護を実践するための能力および態度を養う。
		成人看護実習Ⅱ	慢性的な経過をたどる健康障害により、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする成人期の患者・家族を対象に、セルフケア能力の維持・向上を目指した最適な看護を実践するための能力および態度を養う。
	母性 看護	母性看護学概論	母性看護学の基本概念や母性を取り巻く現状や母子保健施策について学ぶ。また、女性生殖器の形態と機能を学び、性と生殖をめぐる倫理的課題の特徴を理解し、専門職としての倫理的感受性を養う為の姿勢について学び、母性看護の役割と重要性について認識を深める。
		母性看護方法論	妊娠・分娩・新生児・産褥期の身体的特性、心理・社会的特性を理解し、妊産褥婦と新生児における健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。さらに、母児と家族への援助や異常時の援助についても学習を深める。
		母性看護実習	母性（女性）各期の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子およびその家族に対して、適切な援助を実践する能力を養う。さらに、生命誕生と親となる過程における看護職の役割や関連領域の専門職との連携について学ぶ。
	小児 看護	小児看護学概論	小児看護の対象である子どもの理解を促すために、子ども観の変遷や子どもの人権と看護、子どもの医療と倫理などについて学ぶ。また、子どもの成長・発達について、影響因子や成長・発達の評価等を理解し、子どもと家族へのケア及び健康増進のための援助を学習する。
		小児看護方法論	子どもの健康障害を理解し、病気や入院が子どもに与える影響を理解する。小児に特徴的な疾患の病態を理解し、必要な看護について考える。健康障害でさまざまな状況にある子どもと家族への看護アセスメントと、援助の方法及び小児看護に必要な技術を習得する。
		小児看護実習	成長発達段階に応じた生活援助や健康増進のための援助を実践する能力を養う。子どもの健康障害及び病気や入院が子どもに与える影響を理解し、健康障害でさまざまな状況にある子どもと家族への適切な援助を実践する能力を養う。
	高齢者 看護	高齢者看護学概論	高齢期にある人を身体的・心理的・社会的側面から捉え、生涯発達することを理解し、高齢者看護の特性を学ぶ。内容は、その人らしく尊厳のある生活の保障、高齢期にある人の安全で尊厳ある生活維持への支援、老化がもたらす心身の影響と適応への支援、高齢者の生活にかかわる法律と社会資源、高齢者看護における倫理的課題、高齢者を介護する家族への支援などについて学習する
		高齢者看護方法論	加齢による生活の変化及び特徴的に見られる健康問題を持つ老年期にある人に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護を学ぶ。地域の高齢者への支援体制と看護の役割、治療を受けるリハビリテーション過程にある高齢者への援助、生活機能障害のある高齢者の生活適応への支援、家族への支援について教授する。加齢に伴う生理的・心理的・社会的変化の把握の査定、高齢者の健康障害、健康生活上の課題の把握と支援、高齢者の事故防止のための行動と予防支援、安静に伴って起こりやすい合併症予防等を教授する。
		高齢者看護実習	高齢期にある人を身体的・心理・精神的・社会的側面から捉え、生涯発達することを理解し、加齢による生活の変化及び特徴的に見られる健康問題をもつ高齢期にある人に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護実践能力を養う。具体的には、[高齢者看護学概論][高齢者看護方法論]の理解を基盤として、受け持ち患者の看護過程の展開をし、高齢者の生活適応、健康維持・回復への支援及び家族への支援を実践する基礎的能力を養う。

科目区分			科目名	授業の内容
専門 教育科目	専門 分野Ⅱ	精神 看護	精神看護学概論	精神科領域における精神保健医療福祉に関する法律および制度の歴史的変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利養護について理解するとともに、精神科看護の機能と役割、また実践の基本となる理論モデルについて学習する。過去から現在までの精神障害者の処遇や政策・制度の概要および我々の中にある偏見および差別の問題を学生自身が探求する。
			精神看護方法論	精神的健康問題を有する人とその家族の生活に焦点を当て、対象の方をバイオ・サイコ・ソーシャルな視点から多角的にアセスメントし、セルフケアの支援及び生活の質向上に向け看護計画を立案し実施評価できる能力を養う。具体的にはケアリングを基盤とし多様な視点から対象を理解し、援助者である自分自身と対象者との治療的対人関係を効果的に運用し、看護チームによる支援を効果的に展開する具体的な援助方法を学ぶ。合わせて精神科医療における人権擁護に留意した看護実践について学ぶ。
			精神看護実習	精神的健康問題を有する人とその家族の特性を理解し、対象者のストレングスとリカバリーを統合して捉える視点から、その健康の回復・維持・向上を図るための看護を実践できる能力を養う。具体的には「精神看護方法論」における学習を基盤に、精神科病院において入院患者を受け持ち、家族および周囲の支援者等を含め在宅生活移行および地域生活支援に求められる看護実践について学習する。
	統合 分野	在宅 看護	在宅ケア論	在宅で長期にわたってヘルスケアとサービスを必要とする対象とその家族に対し、在宅ケアにおける看護過程、基礎技術および症状や疾患に対する援助技術について学習する。また、健康障害をもつ人々やその家族に対し、保健・医療・福祉システムがどのように連携し、援助しているかを学び、その活用方法、サポートシステム、ケアマネジメントなど在宅ケアシステムについて学ぶ。
			在宅ケア実習	在宅でヘルスケアサービスを必要とする療養者とその家族へのケアを体験し、在宅ケアや看護の実践に必要な知識・技術・態度を修得する。
		総合 看護	ケアリング文化実習	沖縄の歴史や文化を継承しながら、地域で生活する住民、特に高齢者や障害者などと触れあい、彼らの人生や生活、地域の絆やケアリング文化を学ぶことを目的とする。
			感染看護	患者や家族、医療従事者を感染から守るために必要な知識と技術、感染症患者や易感染状態にある患者の看護について学習する。院内感染対策と感染管理の概念やシステムを理解し、多職種連携について理解する。感染症患者や易感染状態にある患者のアセスメントと援助方法、生体防御機能の促進、感染を引き起こしやすい医療処置とその感染防止対策、医療従事者の職業感染予防を理解し、感染症を持つ患者や家族に対する看護とその方法について学ぶ。
			看護研究方法	看護に必要な看護学や関連諸科学の文献を検索し、それらを批判的に読み、活用することができる基礎的能力を養う。また、看護における研究の必要性や研究のプロセスを理解し、研究疑問から研究目的の記述、研究デザインの選択、看護研究の計画が立案できる基礎的能力を養う。
			卒業研究	看護研究方法で学んだ基礎知識をもとに、関心ある課題について研究を計画し、論文としてまとめるまでの過程を通して、看護職に必要な研究能力を養う。具体的には、課題の選択と文献検討、研究デザインの決定、計画書の作成、データの収集と分析、研究結果のまとめ、論文の作成・発表を行う。
			沖縄の文化と看護	沖縄の歴史に由来する伝統的な芸術文化（言語 芸能 伝統工芸 文学など）の理論を学びながら、学内外で実際に見学したり、演習したりして、看護への適用を考察する基礎的な能力を養う。

科目区分			科目名	授業の内容
専 門 教 育 科 目	統 合 分 野	総 合 看 護	ターミナルケア論	ターミナル期にある人と家族を理解するのに必要な概念や理論などについて学ぶ。また、ターミナル期にある人の全人的苦痛を理解し、ターミナル期にある人の苦痛緩和や意思決定支援、家族・遺族のケアのあり方について学ぶ。さらに、終末期に関する緩和ケアチームアプローチと看護師の役割と連携について理解する。
			看護実践と理論	看護理論の構成概念、ならびに看護理論家の理論構成について学習する。看護理論の歴史的発展について概説する。看護理論の基礎的理解を通して、理論と看護実践との関わりに対する理解を深める。
			看護管理	看護管理の目的を理解し、人々の健康向上のために、経営資源を系統的に適用するプロセスについて理解する。看護管理に関する法的基盤、専門職集団としての役割と機能、看護の需要と供給、卒後教育、組織構造と運営、組織行動の原理原則、リーダーシップ、医療・看護事故の予防等の課題について学習する。
			看護政策論	近年の我が国における保健医療制度改革がすすむ中、看護職者が自らの能力を十分に発揮し、社会に貢献するためには、現行の保健・医療福祉の政策決定システムを理解し、制度的改革等を含めた政策上の問題を抽出し、国内外や沖縄県の看護政策における問題解決のための提言をしていくことの重要性を理解する。
			家族看護学	現代社会において健康問題をかかえる家族の多様なありようを理解し、自身の家族観および家族をめぐる価値観についても検討する。様々な事例や状況における当事者の生活および当事者の体験の検討をとおして、家族の強みに着目したリカバリを目指す家族看護について学習する。
			看護教育論	看護学教育の定義及び看護教育制度についての基礎的な理解を深め、諸外国の看護教育制度との比較から、我が国の看護教育制度の特徴と課題について学習する。また、看護教育を具体化するための教育課程及び看護教員論についても学習する。
			国際看護学Ⅰ	異文化看護の概念枠組みを応用した国際的な看護援助や国際協力活動の事例について学びながら、人々の生活に深く根ざしている文化背景を理解し、その尊厳を守る援助について考える。
			国際看護学Ⅱ	2年次の授業で学んだ国際看護に関する基礎的な知識をふまえて、実際の事例や現場をとおして、人々の生活に深く根ざしている文化背景を考慮した具体的な看護活動の展開方法について学ぶ。また、国内・国外の多文化共生社会において、マイノリティー・マジョリティーにかかわらず人間としての尊厳を守るための看護職の役割や重要性について理解する。
			災害看護論	災害医療の基礎知識として、災害サイクルに応じた活動現場別の看護、被災者特性に応じた看護の展開、災害とところのケア、災害看護活動の課題、具体的な発災直後から出動までの看護展開、近年の世界における災害と国際救援活動の現状などの講義を行い、災害発生時のトリアージの演習などをおこなう。
			島嶼・過疎地看護論	島嶼（離島）および過疎地域の弱みを強みに変換して捉え、島嶼・過疎地の住民が、生涯にわたり住み慣れた地域社会で安心して生活できるよう、保健医療福祉を統合した保健活動を展開する地域づくりや地域ケアシステム、看護職の役割について学習する。北部地区離島またはへき地の地区診断から生活環境の特徴を把握し、さらに北部地区で働く看護専門職の実践から、島嶼・過疎地の人々の健康問題の解決に向けた看護職の役割について理解する。
			総合実習	1年から4年までに修得した看護の実践能力の評価を踏まえ、自己の課題を明らかにし、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めることを目的とする。さらに、学生自らが実習を企画し実施し評価し、将来の自らの看護の発展と方向性を探求する。

科目区分			科目名	授業の内容
専門 教育科目	保健師 教育分野	公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	地域で生活する人々の健康問題解決や健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生看護の基本的な考え方について学習する。内容は、公衆衛生看護の歴史、公衆衛生看護活動の理念・目的、基本概念とその活用、活動領域と対象、活動方法、社会環境の変化と健康課題について学ぶ。
			公衆衛生看護活動論	生涯にわたる各発達段階、健康レベルに応じた個人・家族・集団の生活と健康状態、住民が主体的に健康問題を解決できるよう、地域特性と法的根拠を踏まえた保健福祉活動について学習する。公衆衛生看護活動では、母子保健福祉活動、成人保健福祉活動、高齢者保健福祉活動、精神保健福祉活動、難病保健福祉活動、感染症保健福祉活動、歯科保健福祉活動、児童虐待予防福祉活動とその支援について学習する。
			公衆衛生看護方法論Ⅰ	地域の健康問題の把握方法、地域診断に基づく公衆衛生活動計画と評価、住民ニーズの施策化等、基礎的な知識・技術を学ぶ。内容は、地域特性、地域集団の特徴、健康相談の特徴公衆衛生活動計画・実施・評価・施策化等地方自治体の活動計画の推進について学習する
			公衆衛生看護方法論Ⅱ	地域住民が自ら健康問題を意識し、主体的に健康の保持増進を図り、健康問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を駆使して健康支援ができる基礎的な能力を養う。内容は保健指導、家庭訪問、健康教育、健康診査、地区組織の育成、地域ケアシステムづくり、社会資源の開発について学ぶ
			公衆衛生看護管理論	保健行政領域における公衆衛生看護管理の概念・特徴、健康危機管理の意義と管理体制や活動について学習する。講義では、公衆衛生看護活動過程と看護管理（事例管理・地区管理・事業管理・組織運営管理・予算管理・人材育成・人事管理・情報管理）、さらに、具体的に地域ケアシステムづくりや保健管理の役割、災害保健の中長期活動などについて学ぶ。
			公衆衛生看護実習Ⅰ	労働と健康の調和を目指す産業保健の制度と活動の実際、産業保健専門職の役割について学ぶ。さらに健康管理関連施設である総合健診センターや事業所（小規模を含む）の保健活動について、それぞれの理念と目的、役割と機能、制度とシステム、健康増進、健康課題、展開方法について学習する。
			公衆衛生看護実習Ⅱ	保健所における管轄地域の特性及び公衆衛生活動の実際について理解し、地域支援、事業運営、組織運営、予算管理、人材育成、情報管理、健康危機管理について学ぶ。
			公衆衛生看護実習Ⅲ	公衆衛生看護実習ⅠおよびⅡと関連させて、地域の人々の生活と健康の特徴および健康の維持増進のための公衆衛生看護活動と管理機能の実際、市町村自治体の組織と役割および機能について学ぶ。実習内容は、公衆衛生看護活動方法である地域診断、健康教育、家庭訪問、健康相談を実施し理解を深める。さらに、地区組織活動やその支援、地域ケア体制の構築と多職種連携の実際、社会資源の活用等について実習する。